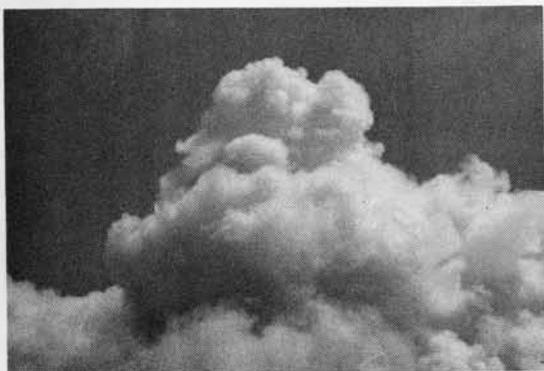


■ 入道雲

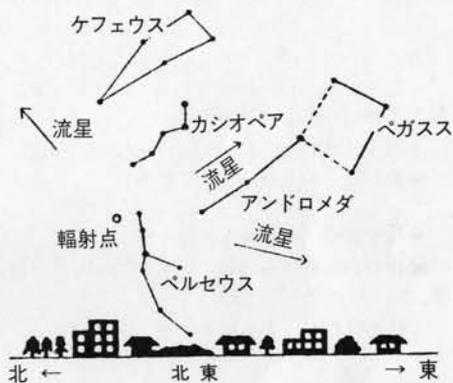
雲の中には、その季節を代表するものがあります。春のおぼろ雲（高層雲）、秋のいわし雲（絹積雲）、そして夏はやはり入道雲です。この雲は日中の太陽による地面の加熱や、冷たい空気がやってきて、暖かい空気が押し上げられることによってできます。この入道雲、頭の上が丸いうちは雄大積雲と呼ばれていますが、さらに発達して、成層圏まで行き、頭が平たくなったら、積乱雲と呼ばれます。富山では冬にもよく見えます。雪の晴れ間に空を見上げて下さい。そこには何となくさびしげな雄大積雲の姿が見えることでしょう。でもやはり、夏のもえるような日ざしの中で、もくもくとわきたつ方が、入道雲には似合っているようです。(Y)



雄大積雲

■ ペルセウス座流星群

8月11日夜半と12日夜半には普段よりずっと多くの流星を見ることができます。ペルセウス座という星座を中心に放射状に流星が流れるのでペルセウス座流星群と呼ばれています。この星座は秋の星座なので、今ごろ見ようと思えば夜半過ぎに見なければなりません。ゆっくり見ようという人は夜1時ごろ起きて、明け方まで見て下さい。夜1時ごろは北東の空、明け方ごろは頭の真上より少し北のあたりを見ると、多くの流星を見ることができます。初めての人でも10分間程ながめると、2・3個、慣れた人では5・6個の流星が見れます。なお、空が暗ければ暗いほど多くの流星が見れます。是非一度ご覧下さい。(W)



星の和名シリーズ 2

—さそり座—

南の空に大きなSの字の形に星が並んでいます。これがさそり座です。さそりの心臓にあたる場所にある1等星がアンタレスで、色が赤いので一目でわかります。今、明るい木星が近くに見えます。

●たいつりぼし

たいなどの魚をつるつりざおと糸をあらわしています。

●さけよいぼし

アンタレスの色が余りに赤いので、酒を飲んで顔がまっ赤になった姿を見ました。

